2021年 11月 10日（水）

サトーホールディングス株式会社

2022年3月期 上期決算説明資料

証券コード：6287

今回の上期決算のポイント

【売上状況】

海外・日本とも回復を継続。需要は旺盛

FY21-Q1

- 海外：好調業界によるけん引とプリンタ特需により過去最高の売上を計上
- 日本：市場・業界によってまだら模様の回復。サプライがメカトロに先行して回復

FY21-Q2

- 海外：好調は続くものの、プリンタ特需の剥落などから前年同期比増加率は緩やか
- 日本：全般に回復が継続する中、一部の市場ではコロナ前水準まで復活

【利益状況】

業績リスクが顕在化。基本戦略を着実に実行

業績リスク

- コストの上昇　(部材、原材料、運賃)
- プリンタの供給制約

戦略実行

- 戦略的な取り組みを遂行。ただし、一時的に粗利率が低下
- 成長投資、営業経費の戻り

決算ハイライト

【連結】

上期は前年同期比で増収・増益。
Q2は増収、営業利益は横ばい

【自動認識ソリューション事業　海外】

上期は増収・増益。Q2は増収、営業利益は微増

- ●ベース事業：既存需要の回復と好調業界への注力が奏功し、上期は増収・増益
- ●プライマリー専業：生活インフラ業界向け好調が継続し、上期は増収・増益

【自動認識ソリューション事業　日本】

上期は既存需要の回復や好調業界への注力により、増収・増益。
Q2は売上堅調も、コスト増や成長投資で減益

事業セグメント別売上高及び営業利益

（単位：百万円）

		FY2021 上期	FY2020 上期	前年比	除く為替
自動認識ソリューション事業	売上高	60,261	49,736	+21.2%	+18.9%
	営業利益	2,762	1,609	+71.7%	+73.9%
海外	売上高	25,284	18,013	+40.4%	+34.1%
	営業利益	1,873	761	2.5倍	2.4倍
日本	売上高	34,977	31,722	+10.3%	+10.3%
	営業利益	888	847	+4.8%	+14.7%
IDP事業	売上高	0	136	-	-
	営業利益	0	-148	-	-
連結（消去後）	売上高	60,261	49,872	+20.8%	+18.6%
	営業利益	2,779	1,470	+89.0%	+91.5%

※IDP事業：2020年9月、全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡

事業セグメント別売上高及び営業利益

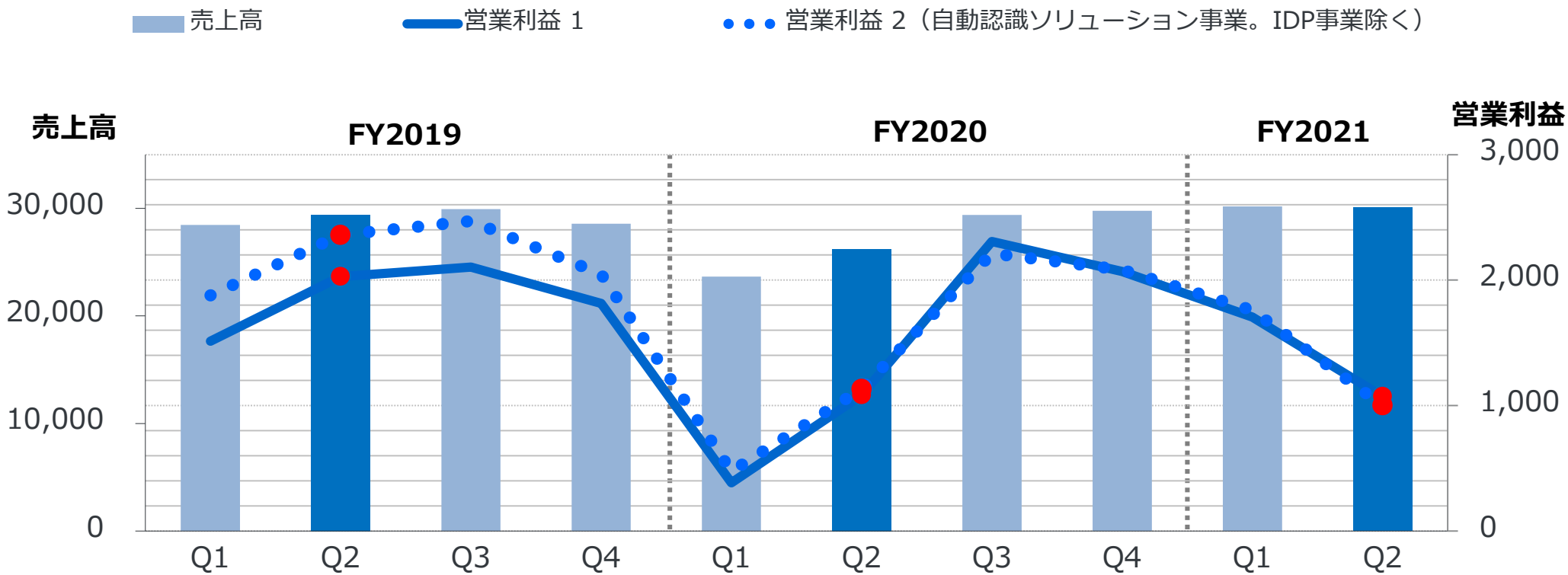
（単位：百万円）

		FY2021 Q2	FY2020 Q2	前年比	除く為替
自動認識ソリューション事業	**売上高**	**30,084**	**26,160**	**+15.0%**	**+12.9%**
	営業利益	**1,001**	**1,132**	**-11.5%**	**-5.9%**
海外	売上高	12,354	10,168	+21.5%	+16.0%
	営業利益	698	683	+2.2%	-0.9%
日本	売上高	17,729	15,991	+10.9%	+10.9%
	営業利益	303	448	-32.4%	-13.6%
IDP事業	**売上高**	**0**	**60**	**-**	**-**
	営業利益	**0**	**-77**	**-**	**-**
連結（消去後）	**売上高**	**30,084**	**26,221**	**+14.7%**	**+12.6%**
	営業利益	**1,073**	**1,084**	**-1.0%**	**+4.9%**

※IDP事業：2020年9月、全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡

売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



売上高	28,463	29,411	29,928	28,569	23,651	26,221	29,398	29,781	30,177	30,084
前年比	+1.2%	+3.7%	-1.1%	-2.9%	-16.9%	-10.8%	-1.8%	+4.2%	+27.6%	+14.7%
営業利益 1	1,514	2,028	2,103	1,815	385	1,084	2,307	2,069	1,706	1,073
前年比	+2.7%	+8.5%	+0.1%	-18.8%	-74.5%	-46.5%	+9.7%	+14.0%	4.4倍	-1.0%
営業利益 2	1,878	2,360	2,471	2,047	476	1,132	2,213	2,083	1,760	1,001
前年比	+5.7%	+3.8%	-2.5%	-22.3%	-74.6%	-52.0%	-10.4%	+1.8%	3.7倍	-11.5%

業績

（単位：百万円）

	FY2021 上期	FY2020 上期	増減	前年比
売 上 高	60,261	49,872	+10,389	+20.8%
営業利益	2,779	1,470	+1,309	+89.0%
営業利益率	4.6%	2.9%	+1.7pt	-
経常利益	2,695	1,231	+1,463	2.2倍
親会社株主に帰属する四半期純利益 ※1	1,848	3,249	-1,401	-43.1%
実効税率 ※2	25.7%	-	-	-
EBITDA ※3	4,974	3,650	+1,324	+36.3%

FY21 上期 為替レート（期中平均）：109.81円/USD, 130.88円/EUR　（FY20 上期 同為替レート： 106.92円/USD, 121.33円/EUR ）
為替感応度：すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+459百万円、営業利益+17百万円（FY21通期ベース）

※1, 2　親会社株主に属する四半期純利益、実効税率
FY2020は、IDP事業譲渡に伴い、前期末に親会社で計上したDataLase社株式の減損損失に係る法人税等調整額の計上あり
※3　EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費
・減価償却　FY21 上期： 2,076百万円　FY20 上期：2,066百万円
・のれん償却　FY21 上期： 117百万円　FY20 上期： 113百万円

業績

（単位：百万円）

	FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減	前年比
売 上 高	30,084	26,221	+3,863	+14.7%
営業利益	1,073	1,084	-10	-1.0%
営業利益率	3.6%	4.1%	-0.6pt	-
経常利益	1,051	613	+437	+71.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益 ※1	762	3,036	-2,274	-74.9%
実効税率 ※2	21.3%	-	-	-
EBITDA ※3	2,176	2,142	+33	+1.6%

FY21 上期 為替レート（期中平均）：109.81円/USD, 130.88円/EUR　（FY20 上期 同為替レート：106.92円/USD, 121.33円/EUR）
為替感応度：すべての通貨が1円/USDの円安に連動した場合、売上高+459百万円、営業利益+17百万円（FY21通期ベース）

※1, 2　親会社株主に属する四半期純利益、実効税率
　　FY2020は、 IDP事業譲渡に伴い、前期末に親会社で計上したDataLase社株式の減損損失に係る法人税等調整額の計上あり
※3　　EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費
　　・減価償却　　FY21 Q2： 1,043百万円　　FY20 Q2： 1,001百万円
　　・のれん償却　FY21 Q2： 59百万円　　FY20 Q2： 56百万円

総括

Q2 7~9月

既存需要の回復と好調業界への注力が奏功し、全地域で増収。
プリンタの供給制約や原材料価格の高騰などを背景に、営業利益は微増

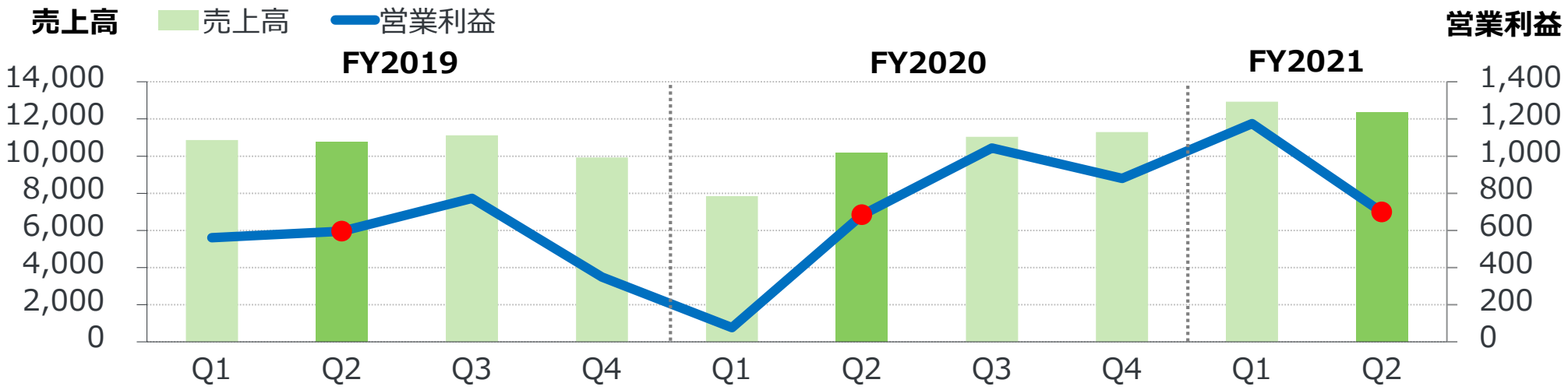
（単位：百万円）

	FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減	増減 %	増減 除く為替
売上高	**12,354**	**10,168**	**+2,186**	**+21.5%**	**+16.0%**
粗利額	3,992	3,572	+420	+11.8%	-
粗利率（外売）	32.3%	35.1%	-2.8pt	-	-
営業利益	**698**	**683**	**+14**	**+2.2%**	**-0.9%**
営業利益率	5.7%	6.7%	-1.1pt	-	-

	FY2021 上期	FY2020 上期	増減	増減 %	増減 除く為替
売上高	**25,284**	**18,013**	**+7,270**	**+40.4%**	**+34.1%**
粗利額	8,686	6,323	+2,362	+37.4%	-
粗利率（外売）	34.4%	35.1%	-0.7pt	-	-
営業利益	**1,873**	**761**	**+1,112**	**2.5倍**	**2.4倍**
営業利益率	7.4%	4.2%	+3.2pt	-	-

売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



売上高	10,867	10,739	11,118	9,922	7,844	10,168	11,045	11,290	12,929	12,354
前年比	-0.4%	+0.5%	-2.6%	-3.7%	-27.8%	-5.3%	-0.7%	+13.8%	+64.8%	+21.5%
営業利益	560	595	772	349	77	683	1,043	880	1,175	698
前年比	+1.2%	-10.7%	+14.6%	+1.4%	-86.1%	+14.8%	+35.1%	2.5倍	15.1倍	+2.2%

事業別内訳

Q2
7～9月

ベース事業：ターゲット市場のリテールを中心にサプライがけん引して増収。
プリンタの供給制約や原価の上昇などにより、営業利益の伸びは限定的
プライマリー専業：生活インフラ業界向けが堅調で増収。原価上昇などの影響により減益

（単位：百万円）

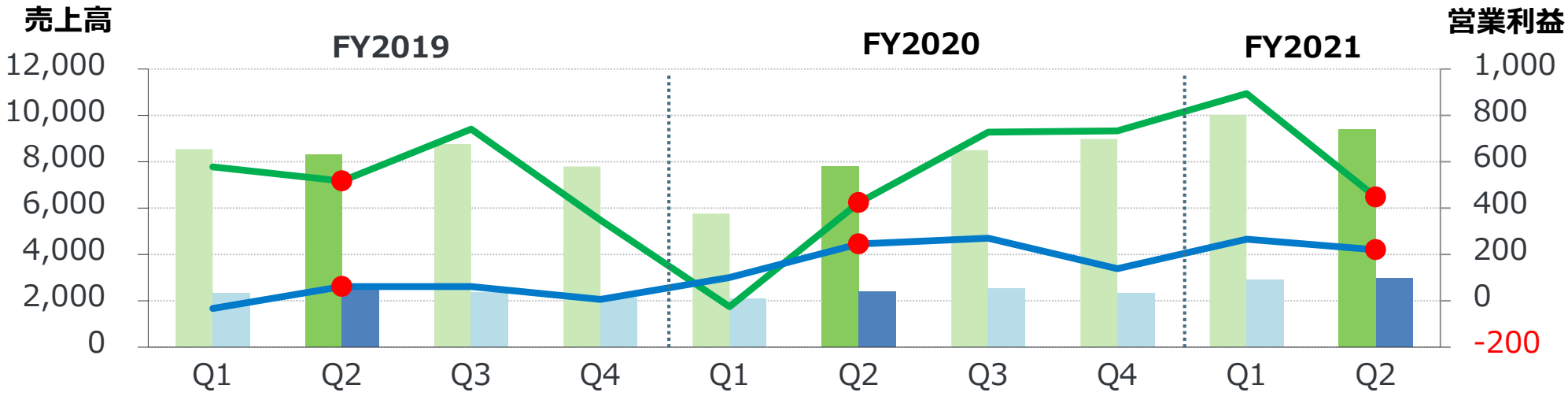
		FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	9,399	7,779	+1,620	+20.8%	+14.5%
	営業利益	447	423	+24	+5.8%	-0.7%
プライマリー専業	売上高	2,955	2,389	+565	+23.7%	+20.9%
	営業利益	220	245	-24	-10.1%	-7.4%
消去	営業利益	29	14	+15	2.0倍	2.0倍
合計	売上高	12,354	10,168	+2,186	+21.5%	+16.0%
	営業利益	698	683	+14	+2.2%	-0.9%

		FY2021 上期	FY2020 上期	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	19,423	13,534	+5,888	+43.5%	+35.0%
	営業利益	1,342	396	+945	3.4倍	3.2倍
プライマリー専業	売上高	5,860	4,478	+1,382	+30.9%	+31.6%
	営業利益	486	345	+140	+40.7%	+50.0%
消去	営業利益	44	18	+25	2.4倍	2.4倍
合計	売上高	25,284	18,013	+7,270	+40.4%	+34.1%
	営業利益	1,873	761	+1,112	2.5倍	2.4倍

自動認識ソリューション事業（海外）

事業別 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



ベース	売上高	8,539	8,286	8,758	7,794	5,755	7,779	8,499	8,976	10,023	9,399
	前年比	-2.2%	-1.6%	-3.9%	-6.8%	-32.6%	-6.1%	-3.0%	+15.2%	+74.2%	+20.8%
	営業利益	577	517	740	348	-26	423	727	733	894	447
	前年比	+21.1%	-3.9%	+9.2%	-27.1%	-	-18.2%	-1.8%	2.1倍	-	+5.8%
プライマリー	売上高	2,328	2,453	2,360	2,128	2,089	2,389	2,546	2,313	2,905	2,955
	前年比	+6.8%	+8.3%	+2.5%	+9.7%	-10.3%	-2.6%	+7.9%	+8.7%	+39.1%	+23.7%
	営業利益	-33	61	61	6	100	245	270	139	266	220
	前年比	-	-58.3%	4.9倍	-	-	4.0倍	4.4倍	22.0倍	2.6倍	-10.1%

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

米州

Q2
7～9月

ベース事業：活況な米国のリテール市場で物流量が増加。サプライがけん引して増収。
プリンタの供給制約やサプライのコスト上昇などにより減益
プライマリー専業：エッセンシャル業界の需要を捉えて増収。原材料高により増益は限定的

（単位：百万円）

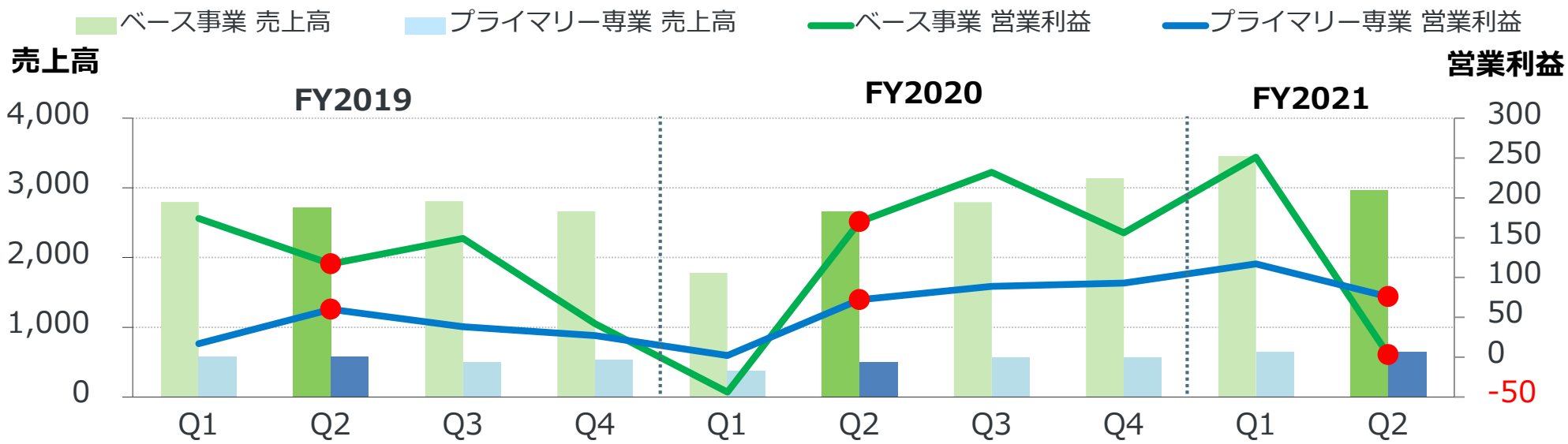
		FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	2,970	2,660	+309	+11.6%	+8.0%
	営業利益	3	170	-167	-97.8%	-97.6%
プライマリー専業 ・Achernar社 ・Prakolar社	売上高	643	498	+145	+29.2%	+34.3%
	営業利益	76	72	+3	+4.7%	+21.7%
合計	売上高	3,614	3,159	+454	+14.4%	+12.1%
	営業利益	79	243	-163	-67.2%	-62.0%

		FY2021 上期	FY2020 上期	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	6,429	4,442	+1,987	+44.7%	+41.5%
	営業利益	255	126	+129	2.0倍	2.0倍
プライマリー専業 ・Achernar社 ・Prakolar社	売上高	1,292	876	+415	+47.4%	+58.2%
	営業利益	193	75	+118	2.6倍	3.1倍
合計	売上高	7,721	5,318	+2,402	+45.2%	+44.2%
	営業利益	448	201	+247	2.2倍	2.4倍

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

米州 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



ベース	売上高	2,797	2,714	2,811	2,664	1,781	2,660	2,794	3,140	3,458	2,970
	前年比	-2.0%	+2.8%	-7.6%	-3.2%	-36.3%	-2.0%	-0.6%	+17.8%	+94.2%	+11.6%
	営業利益	174	117	149	42	-44	170	232	156	251	3
	前年比	4.1倍	17.0倍	-	3.8倍	-	+45.6%	+54.8%	3.6倍	-	-97.8%
プライマリー	売上高	577	586	497	536	378	498	571	576	648	643
	前年比	+5.6%	+0.4%	-15.2%	-2.5%	-34.5%	-15.0%	+14.9%	+7.3%	+71.4%	+29.2%
	営業利益	17	60	38	27	2	72	89	93	117	76
	前年比	+86.3%	+76.8%	3.2倍	-1.1%	-85.4%	+19.8%	2.3倍	3.4倍	45.9倍	+4.7%

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

欧州

Q2
7～9月

ベース事業：食品スーパーなど好調業界や外食など回復が進む業界に注力し、増収。
プリンタの供給制約や原価の上昇などにより減益
プライマリー専業：ロシアのOkil社における食品・飲料など既存ビジネスの深耕により増収。
原価上昇などの影響により減益

（単位：百万円）

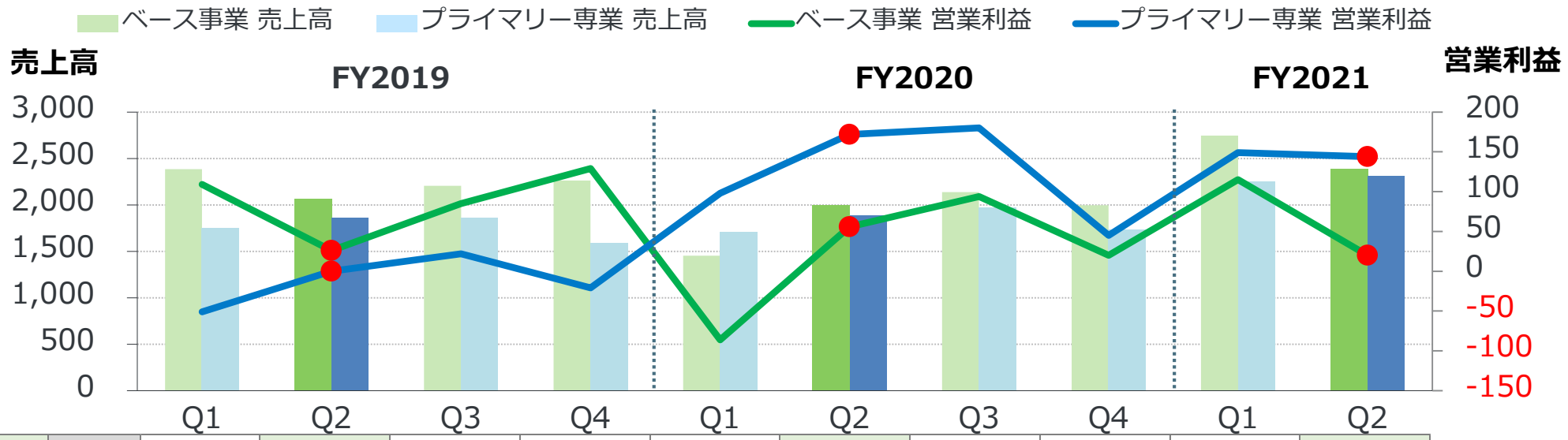
		FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	2,391	2,000	+391	+19.5%	+13.2%
	営業利益	20	56	-36	-63.8%	-60.2%
プライマリー専業 ・Okil社 ・X-Pack社	売上高	2,311	1,891	+420	+22.2%	+17.3%
	営業利益	144	172	-28	-16.3%	-19.7%
合計	売上高	4,703	3,892	+811	+20.8%	+15.2%
	営業利益	164	228	-64	-28.0%	-29.7%

		FY2021 上期	FY2020 上期	増減		
					%	除く為替
ベース事業	売上高	5,138	3,454	+1,684	+48.8%	+36.6%
	営業利益	136	-29	+166	-	-
プライマリー専業 ・Okil社 ・X-Pack社	売上高	4,568	3,602	+966	+26.8%	+25.1%
	営業利益	293	270	+22	+8.4%	+7.0%
合計	売上高	9,707	7,056	+2,650	+37.6%	+30.8%
	営業利益	429	240	+189	+78.6%	+73.0%

自動認識ソリューション事業（海外）地域別内訳

欧州 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
ベース	売上高	2,386	2,066	2,205	2,264	1,453	2,000	2,137	1,996	2,746	2,391
	前年比	+3.1%	-4.4%	-5.4%	-0.7%	-39.1%	-3.2%	-3.1%	-11.8%	+89.0%	+19.5%
	営業利益	109	26	85	129	-86	56	94	20	115	20
	前年比	-0.8%	-10.7%	+61.7%	+11.1%	-	2.2倍	+9.6%	-84.2%	-	-63.8%
プライマリー	売上高	1,751	1,867	1,862	1,591	1,711	1,891	1,974	1,737	2,256	2,311
	前年比	+7.2%	+11.1%	+8.6%	+14.6%	-2.3%	+1.3%	+6.0%	+9.2%	+31.9%	+22.2%
	営業利益	-51	0	22	-21	98	172	180	45	149	144
	前年比	-	-	36.2倍	-	-	-	8.0倍	-	+51.8%	-16.3%

アジア・オセアニア

Q2 7～9月

ベース事業：すべての販社で増収。特に中国販社がけん引。
増収効果により増益

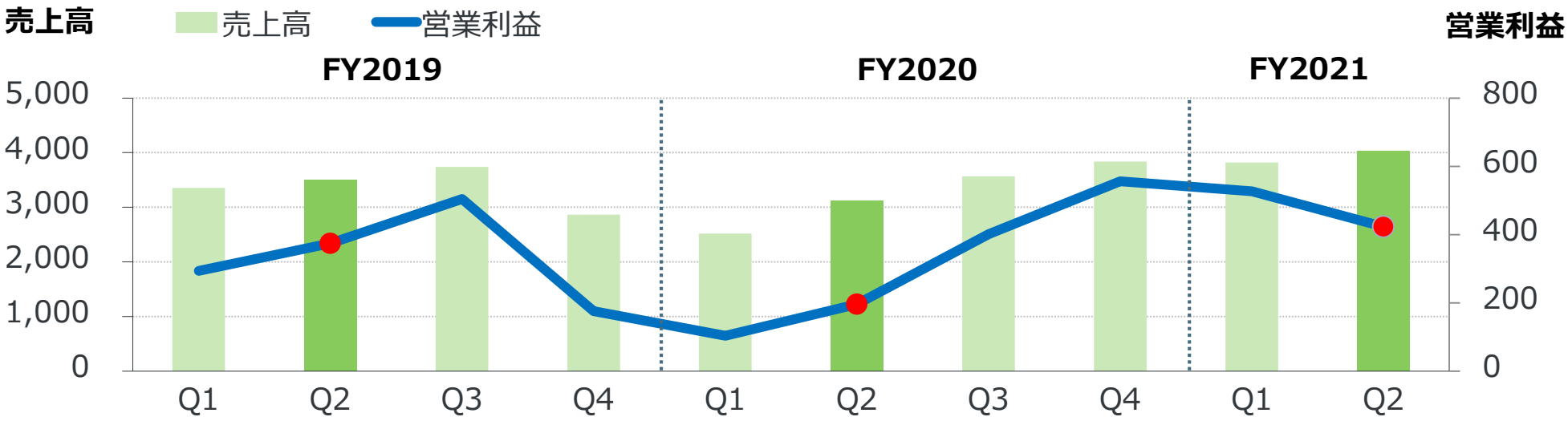
（単位：百万円）

		FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	4,037	3,117	+919	+29.5%	+21.0%
	営業利益	423	196	+227	2.2倍	2.0倍

		FY2021 上期	FY2020 上期	増減	%	除く為替
ベース事業	売上高	7,855	5,638	+2,217	+39.3%	+28.8%
	営業利益	950	300	+650	3.2倍	2.9倍

アジア・オセアニア 売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



		Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
ベース	売上高	3,355	3,504	3,740	2,865	2,520	3,117	3,567	3,839	3,817	4,037
	前年比	-5.8%	-3.2%	-0.1%	-13.9%	-24.9%	-11.1%	-4.6%	+34.0%	+51.5%	+29.5%
	営業利益	294	374	504	176	104	196	401	556	527	423
	前年比	-9.4%	-25.5%	-24.7%	-49.7%	-64.5%	-47.6%	-20.5%	3.2倍	5.1倍	2.2倍

総括

Q2 7～9月

概ね全市場で回復傾向が継続して増収。好調業界への戦略的な取り組みにより、相対的に低粗利のプリンタ販売が増加し、粗利率が低下。また輸送コスト上昇や成長投資により減益

（単位：百万円）

	FY2021 Q2	FY2020 Q2	増減	前年比
メカトロ売上高	7,337	6,319	+1,017	+16.1%
サプライ売上高	10,405	9,672	+733	+7.6%
外部売上高 計	**17,729**	**15,991**	**+1,737**	**+10.9%**
粗利額	8,203	7,613	+590	+7.8%
粗利率（外売）	46.3%	47.6%	-1.3pt	-
営業利益	**303**	**448**	**-145**	**-32.4%**
営業利益率	1.7%	2.8%	-1.1pt	-

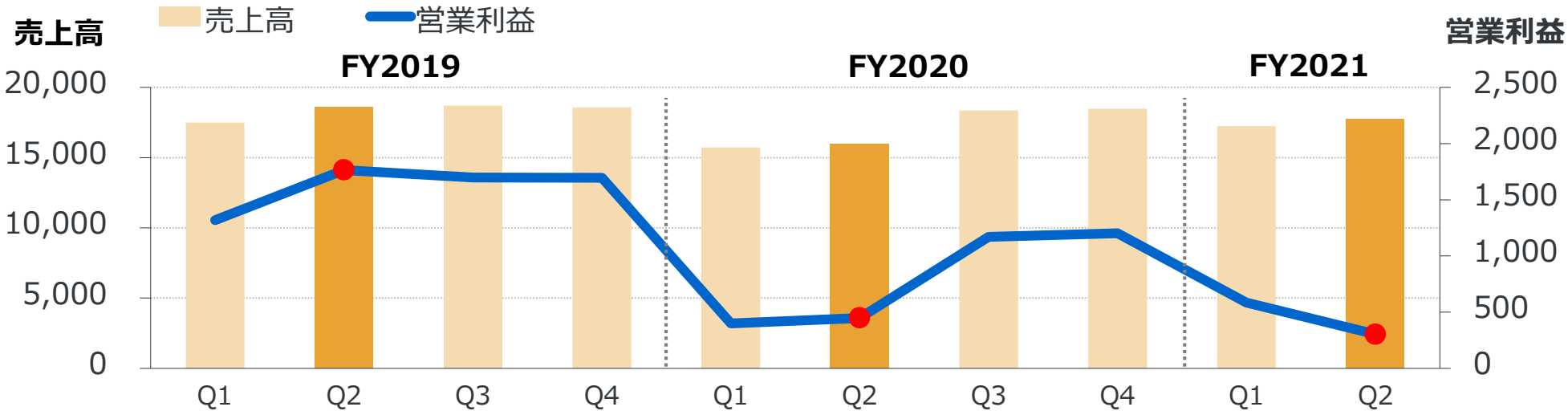
	FY2021 上期	FY2020 上期	増減	前年比
メカトロ売上高	14,076	12,496	+1,580	+12.6%
サプライ売上高	20,932	19,226	+1,705	+8.9%
外部売上高 計	**34,977**	**31,722**	**+3,254**	**+10.3%**
粗利額	16,450	14,953	+1,496	+10.0%
粗利率（外売）	47.0%	47.1%	-0.1pt	-
営業利益	**888**	**847**	**+40**	**+4.8%**
営業利益率	2.5%	2.7%	-0.1pt	-

メカトロ：プリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サポートなど
サプライ：消耗品。可変情報ラベル、RFIDタグ、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなど

注：外部売上計はメカトロ、サプライ、その他の合算

売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



売上高	17,495	18,578	18,709	18,578	15,730	15,991	18,352	18,490	17,248	17,729
前年比	+2.4%	+5.7%	-0.1%	-2.4%	-10.1%	-13.9%	-1.9%	-0.5%	+9.6%	+10.9%
営業利益	1,318	1,765	1,698	1,697	399	448	1,170	1,203	585	303
前年比	+7.7%	+9.8%	-8.7%	-25.9%	-69.7%	-74.6%	-31.1%	-29.1%	+46.7%	-32.4%

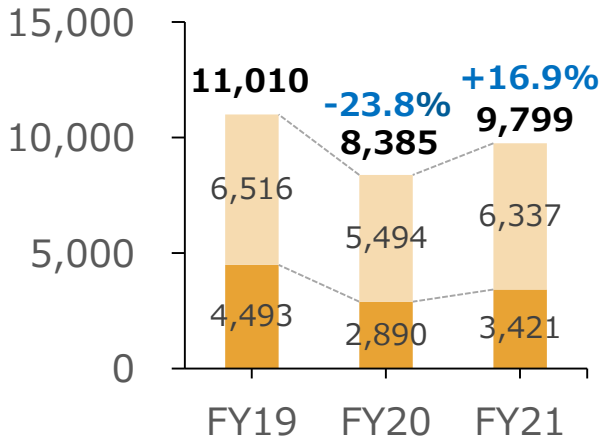
市場別売上高推移

注：2021年度より市場区分を改定
2019年度及び2020年度数値は遡及修正後

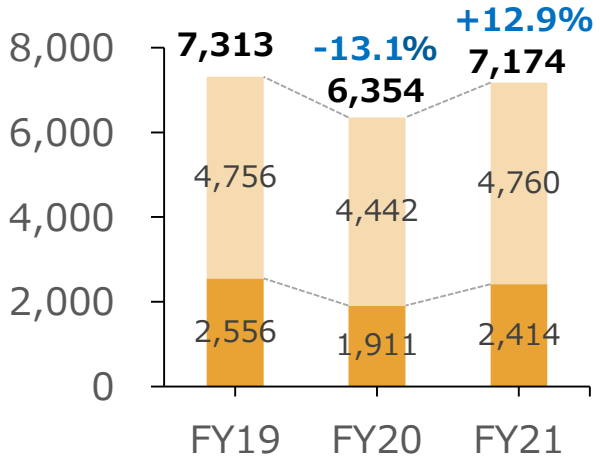
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年同期比

（単位：百万円）

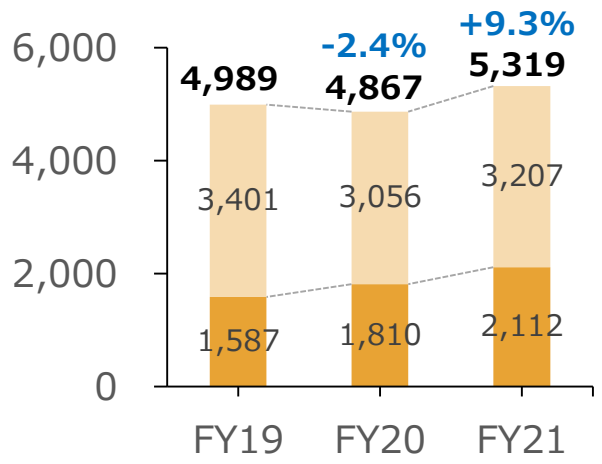
マニュファクチャリング



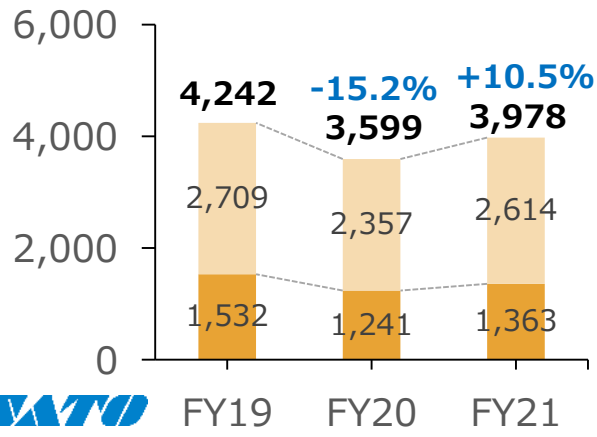
ロジスティクス



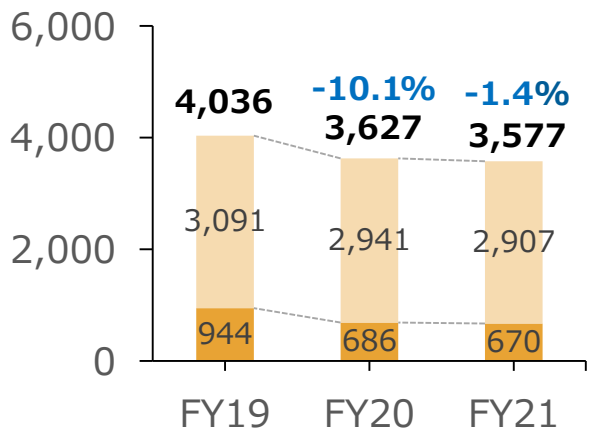
リテール



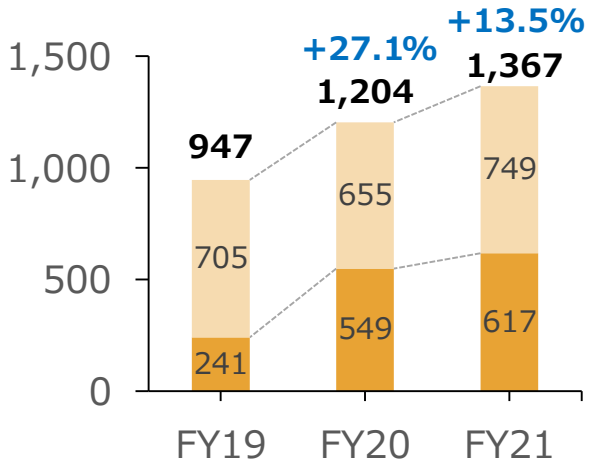
ヘルスケア



フード



公共

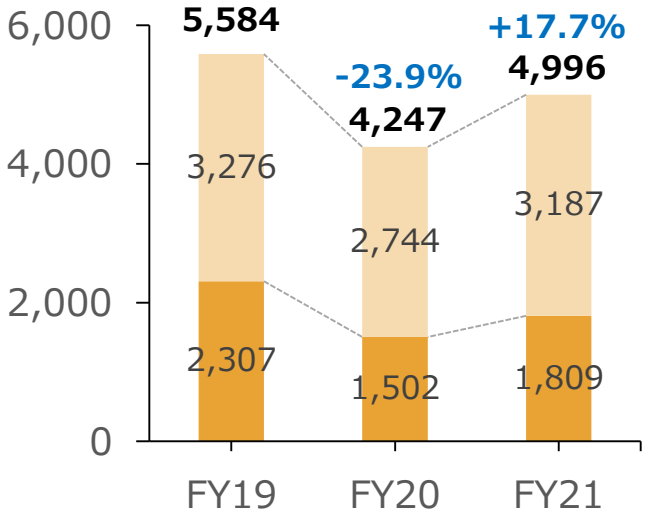


市場別売上高推移　(1/2)

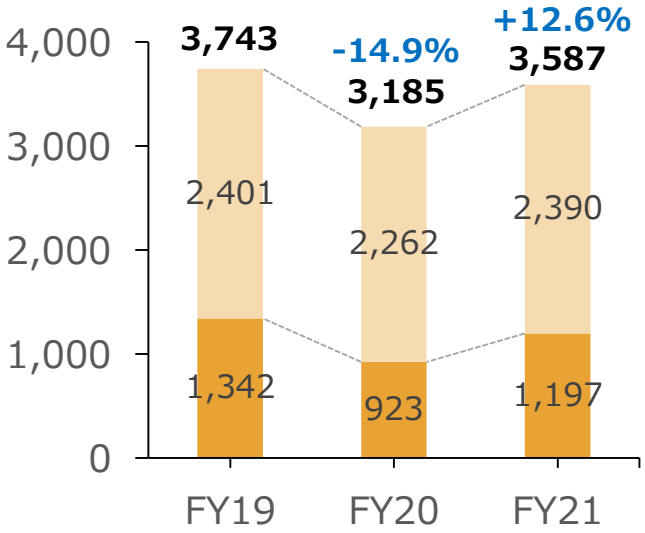
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年同期比

(単位：百万円)

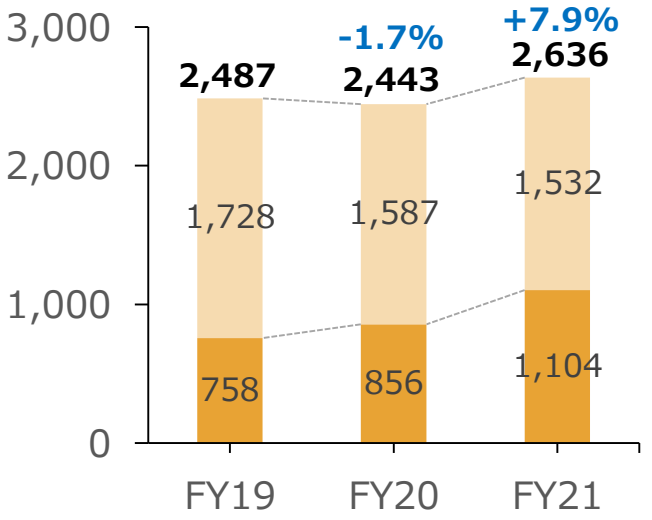
マニュファクチャリング



ロジスティクス



リテール



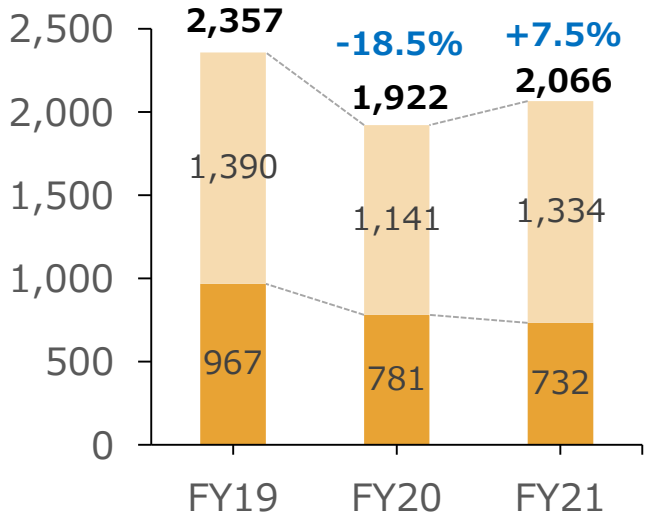
	マニュファクチャリング	ロジスティクス	リテール
事業環境	半導体の需要急増から、関連する化学業界や電子部品は好調。一方、自動車や鉄鋼業界は生産活動が停滞	EC市場の拡大や巣ごもり需要の継続に各業界が対応。自動化やデジタル化などへのニーズが増大	食品スーパーやECの活況が継続。店舗作業の効率化やEC対応を進める業界の自動化へのニーズが増大
当社状況	サプライは好調業界のニーズを捉えて前年同期比で大幅伸長。メカトロは、人手不足対応や効率化のニーズにより大幅に伸長	サプライは売上構成比の高い卸業の巣ごもりニーズ対応などを捉えて伸長。メカトロは自動化や、入出荷管理などのデジタル化への対応が貢献して大幅伸長	サプライは、専門店の時短営業などが好調業界での需要拡大を相殺して減少。メカトロは好調業界の人手不足対応などのニーズを捉えて大幅に増加

市場別売上高推移　(2/2)

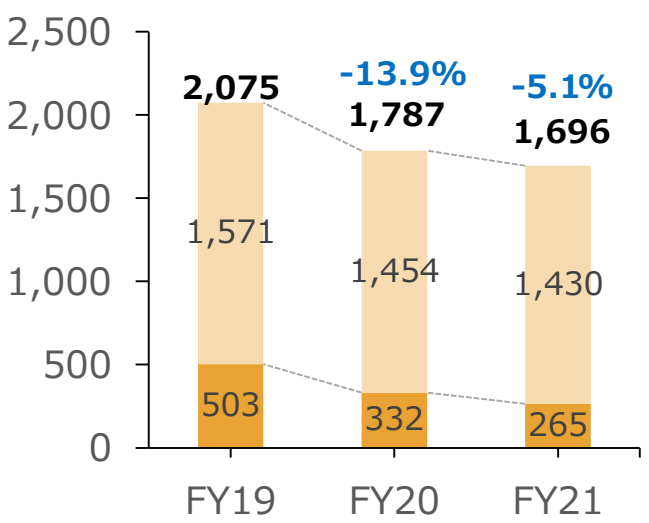
■：メカトロ　■：サプライ　※%は前年同期比

（単位：百万円）

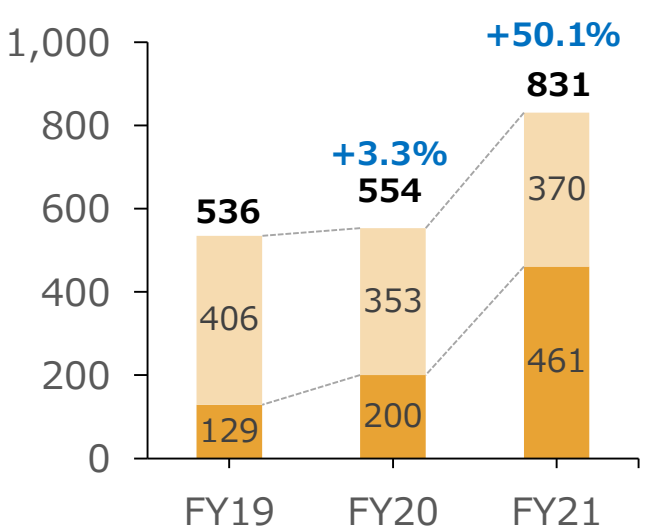
ヘルスケア



フード



公共

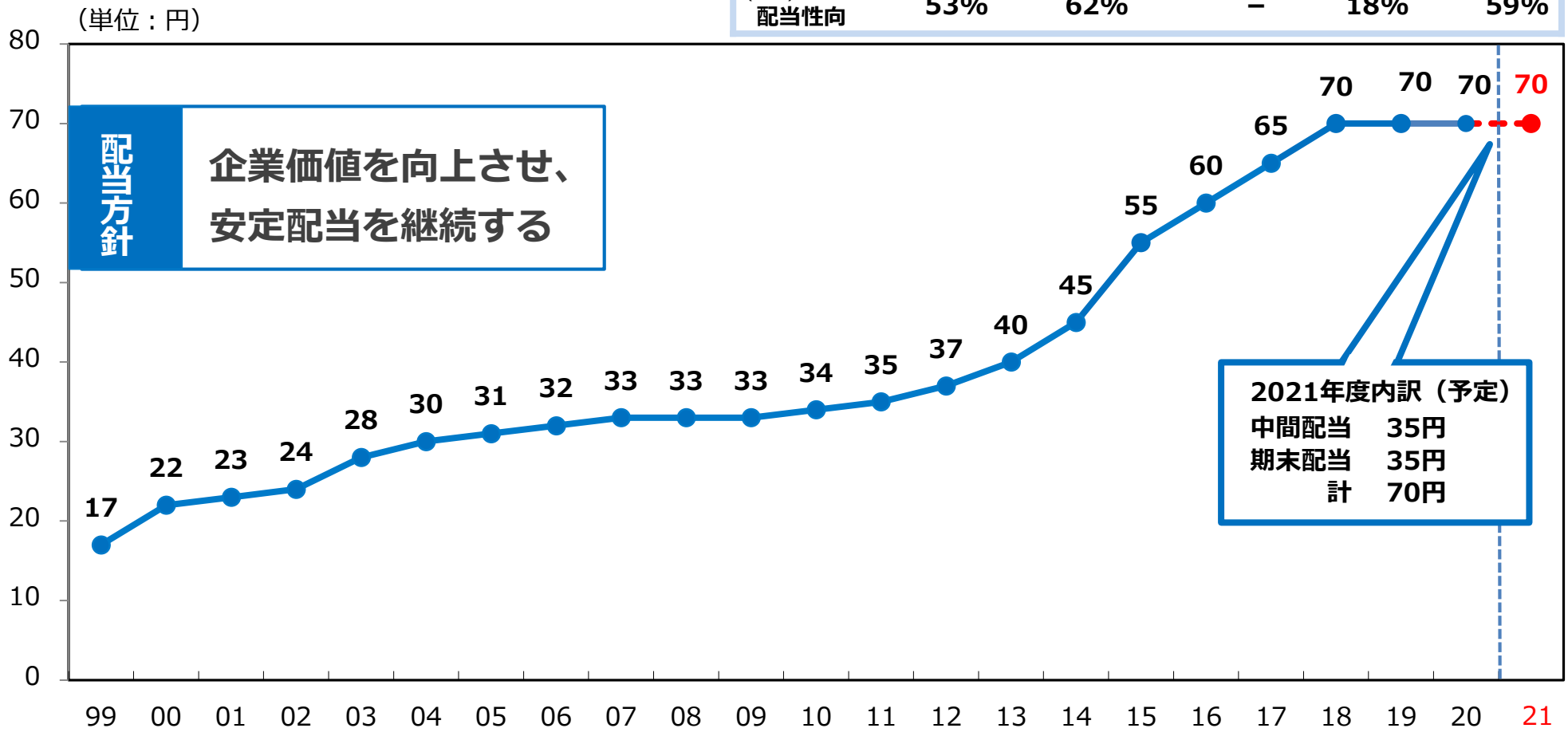


	ヘルスケア	フード	公共
事業環境	医療機関への外来者数は回復傾向。医療機器の管理業務効率化や人手不足対応など、全般に需要は底堅い	法令対応や品質管理意識向上を背景に、トレーサビリティや業務効率化需要が増大	全般に外部環境は安定
当社状況	サプライは医療機器や病院からの需要増が寄与して増加。メカトロは病院向けは回復も、前年同期に医薬品業界で計上の大口案件の剥落により減少	サプライは全般的に回復も、前年の内食特需の反動により微減。メカトロは外食が回復も、前年同期にあった大口案件の剥落により減少	サプライは新規受注の積み上げにより増加。メカトロは大口顧客からの受注により大幅に伸長

配当

2021年度中間配当は35円とする

	17年度	18年度	19年度	20年度	21年度(計画)
EPS	121.5円	112.5円	-56.1円	385.9円	118.9円
ROE	7.6%	6.9%	-3.6%	24.4%	6.7%
(参考) 配当性向	53%	62%	–	18%	59%



2021年度　業績計画

通期は売上高を上方修正、営業利益以下は据え置き

（単位：百万円）

(カッコ内は期初計画)	上期		下期		通期	
	実績	前年比	計画	前年比	計画	前年比
売 上 高	60,261 (56,700)	+20.8%	61,738 (60,300)	+4.3%	122,000 (117,000)	+11.9%
営業利益	2,779 (2,400)	+89.0%	3,620 (4,000)	-17.3%	6,400	+9.4%
経常利益	2,695 (2,300)	2.2倍	3,504 (3,900)	-18.3%	6,200	+12.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	1,848 (1,500)	-43.1%	2,151 (2,500)	-77.8%	4,000	-69.1%
	<参考>					
EBITDA ※	10,163	←2020年度通期			10,800	+6.3%

※ EBITDA＝営業利益＋減価償却費＋のれん償却費

FY21 想定レート　：　110円/USD,　131円/EUR
FY21 上期為替レート (期中平均)：109.81円/USD, 130.88円/EUR
FY20 通期為替レート (期中平均)：106.10円/USD, 123.75円/EUR

営業減益見通しの要因と対応策

需要は引き続き旺盛も、想定外のコストが発生。
短期・中長期の対応策を策定・推進中

減益要因　対応策

プリンタ
製造コストの上昇（半導体不足やサプライヤー工場稼働減による部材価格高騰や代替品調達）

プリンタ
輸送コストの上昇（販売機会ロス回避のための航空便使用増加）

ラベル
原材料価格の上昇（原紙価格などの上昇）

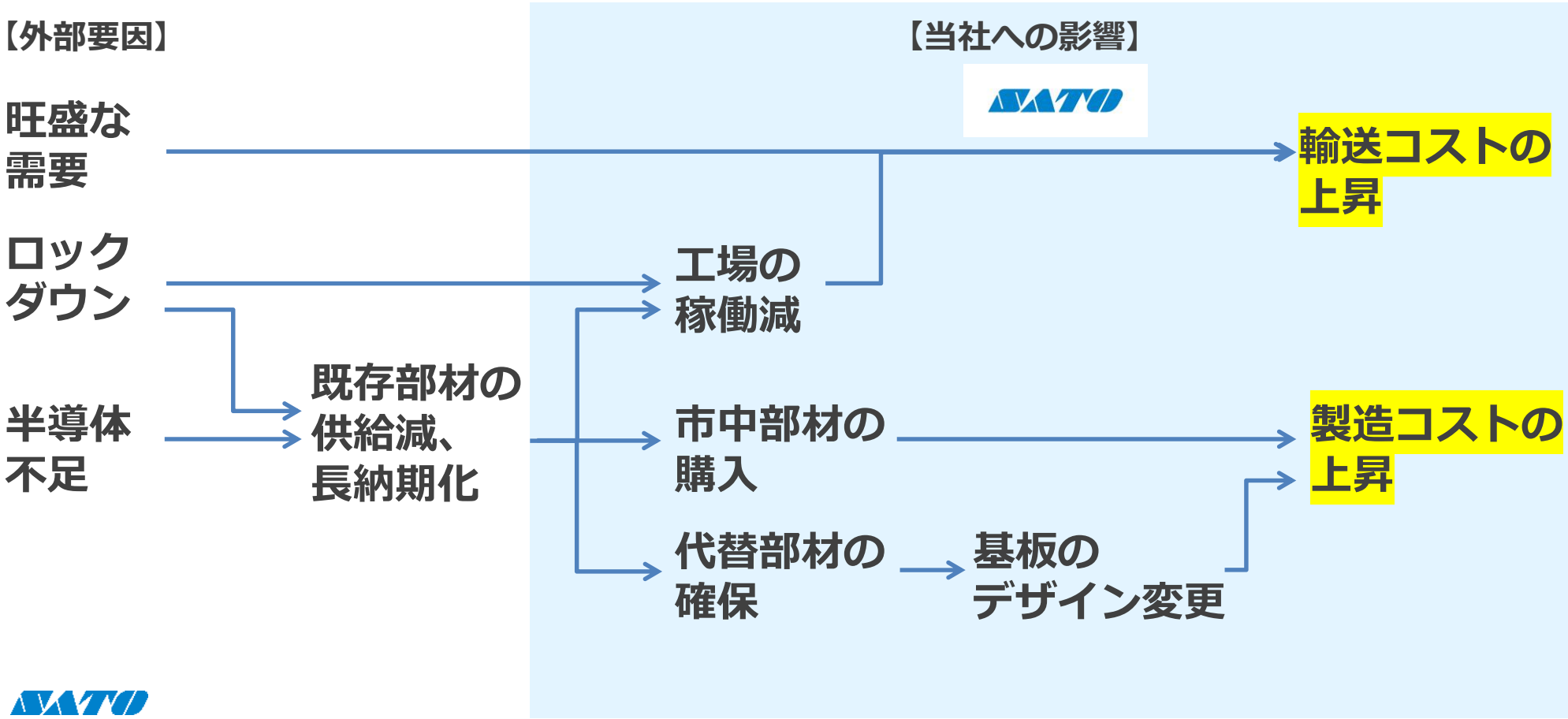
戦略投資のスコープ拡大（DX化投資）

減益インパクトの抑制活動（対応策）

- 好調業界・用途に一層注力。高付加価値ソリューションの拡販加速
  リプレイスの加速などプリンタの拡販
- 価格転嫁、コストダウン、販管費の効率執行
- 収益力強化（日本事業）

営業減益見通しの要因（プリンタ）

プリンタに係る外部要因と、当社への影響



営業減益要因と対応策の影響見込み（規模と期間のイメージ）

減益影響は下期に増大も、主なものはFY22以降一服。
対応策は、主にQ4以降に影響増大

減益要因　対応策

		FY21下期影響規模	影響期間
粗利	プリンタ 製造コストの上昇	大	Q2より発現、下期増大。 FY22も継続リスク有
	ラベル 原材料価格の上昇	大	Q2より発現、下期もう一段の上昇。 その後も継続リスク高い
	・高付加価値 ソリューション提供加速 ・プリンタ拡販	中	Q3より発現、Q4が今期のピーク
	プリンタ/ラベル 価格転嫁、コストダウン	大	Q2より徐々に発現し、 その後も段階的に拡大
販管費	プリンタ 輸送コストの上昇	中	Q2より発現、下期増大。 今期で一服
	戦略投資のスコープ拡大	中	下期限定で発生
	販管費の効率執行	大	緊急対策は下期限定

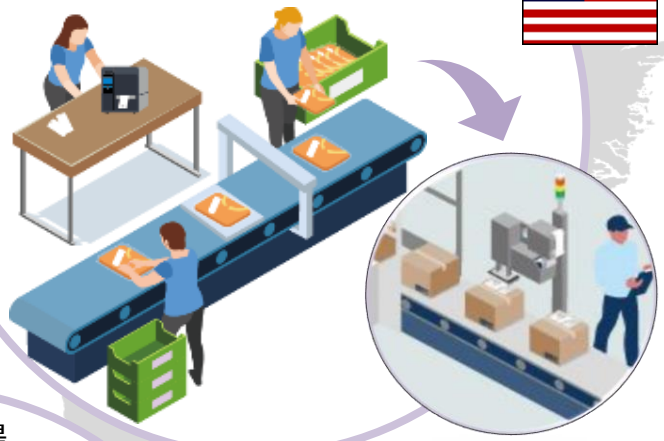
好調業界・用途へ、高付加価値ソリューションの拡販を加速（事例）

フード市場
ファストフード業界
（内容表示ラベル発行用途）





リテール市場
オフプライスリテーラー*
（物流センターでのタギング用途）



*型落ちしたブランド商品や
季節外れのものを安く販売する店舗

マニュ市場
電機・電子業界
（入出庫用途）



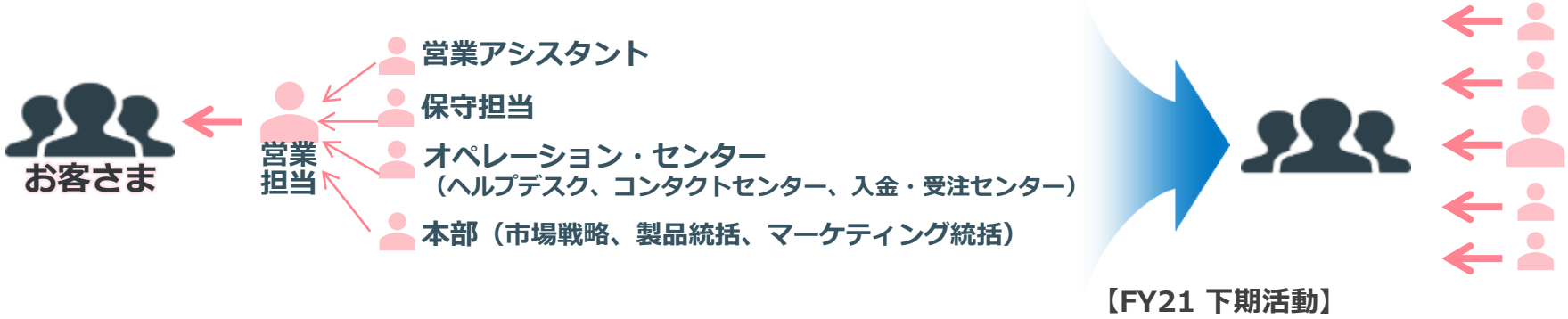
リテール市場
食品スーパー業界
（多様なラベルの発行用途）





収益力強化（日本事業）

高付加価値ソリューションの提供を支える取り組み。
お客さま接点を増やし、一人当たりの生産性を向上



1. 売り方の改革

体制変革や形式知化

- **マーケティング活動由来の商談創出の加速**
- **保守担当や営業アシスタントによるプリンタのリプレイス活動やサプライの拡販**

2. キラーコンテンツの強化

商品・サービスの強化。共通解化や標準化

- **RFID温度ロガーなど、優位性のある商品の創出**
- **標準ラベルの拡販**

3. バリューチェーンの最適化

支える仕事の効率化

- **オペレーション・センターへの業務集約**
  - 営業拠点が担当の登録作業などを集約
  - 小口のお客さまの対応を集約

4. 原価低減

- **プリンタ部材やラベル基材の最適化**

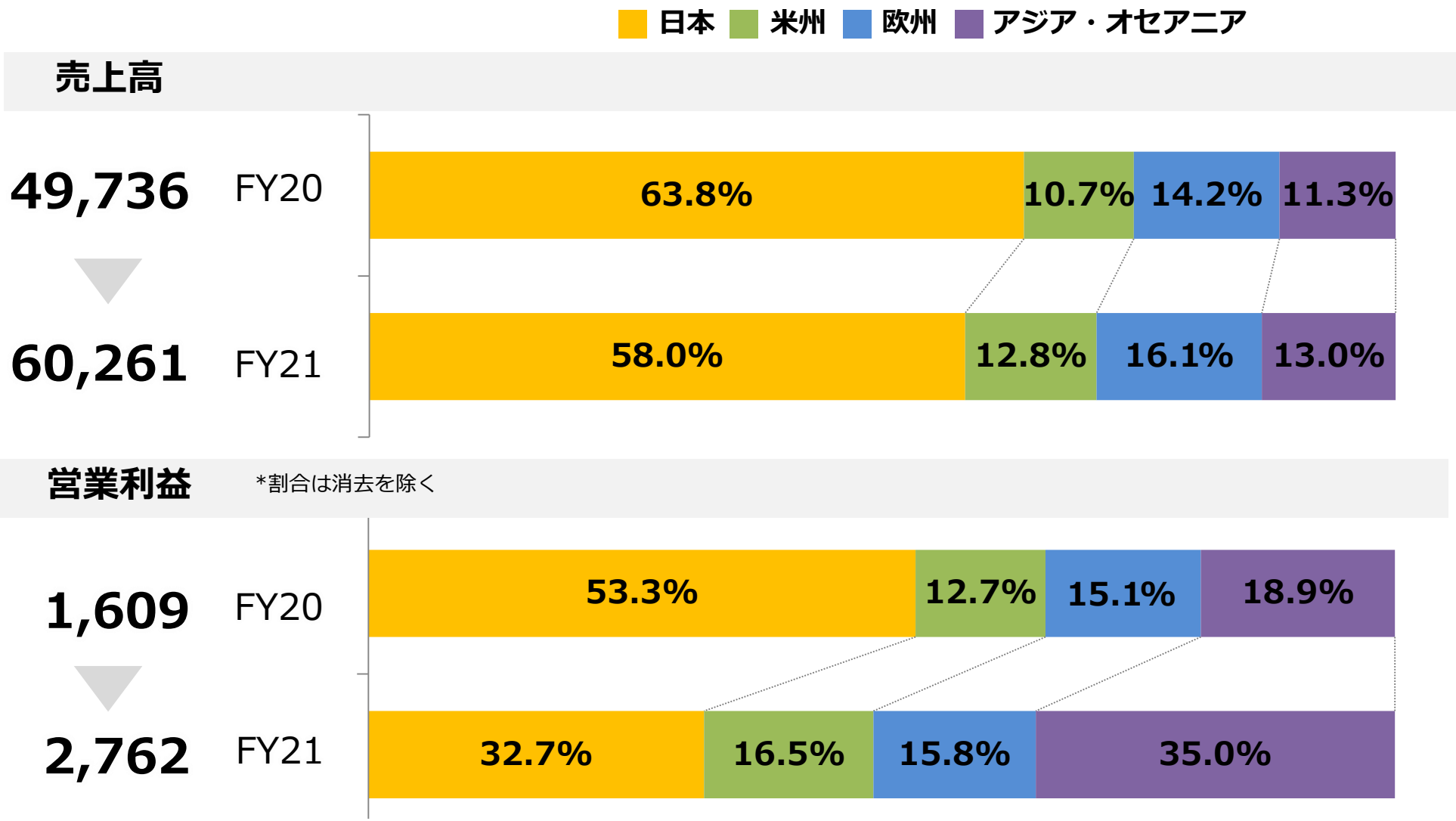
Appendix

補足資料　P.31～P.38

用語集　P.39～P.42

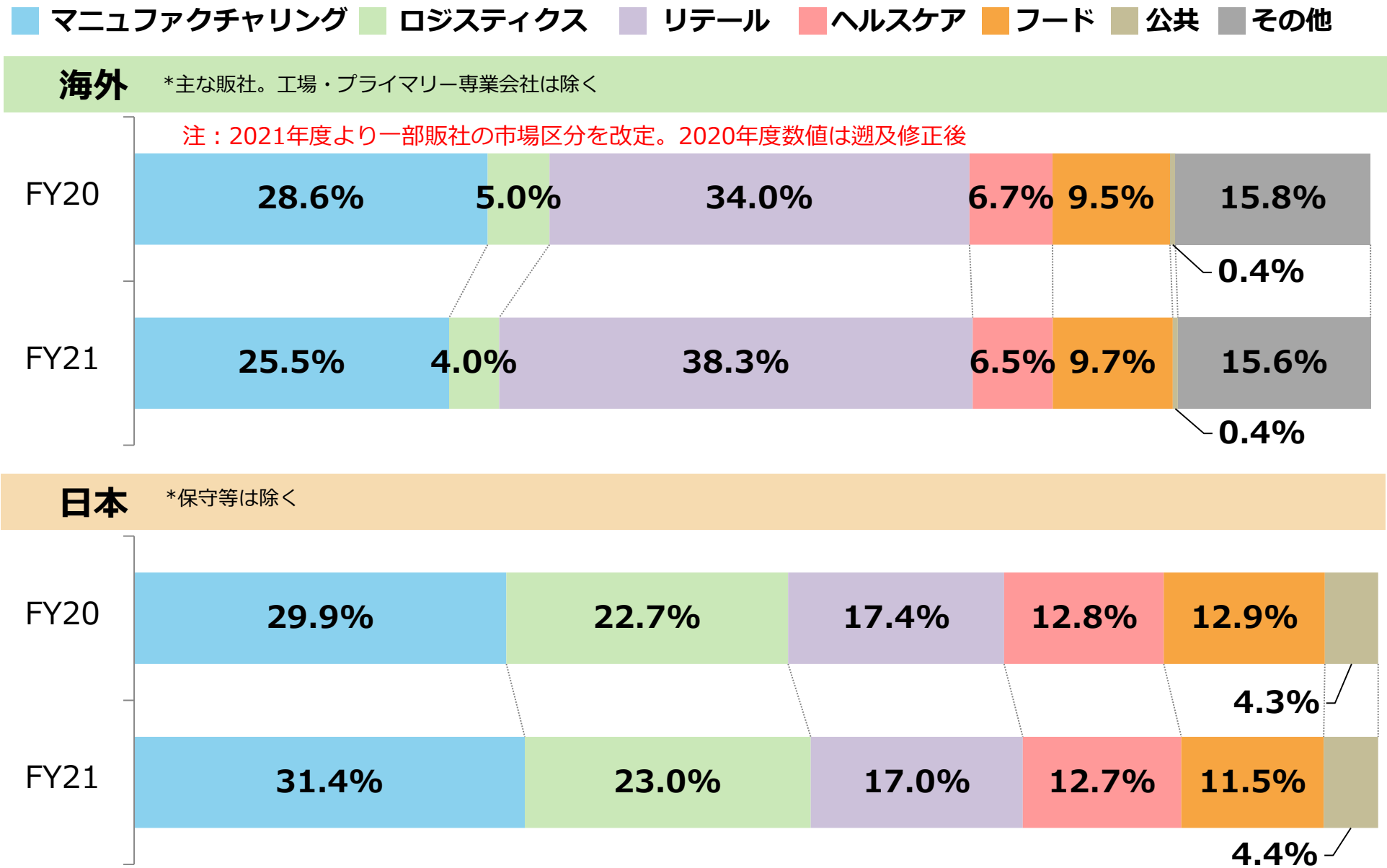
地域別売上高及び営業利益構成

（単位：百万円）



営業利益率　FY20　日本：2.7%、海外：4.2%
FY21　日本：2.5%、海外：7.4%

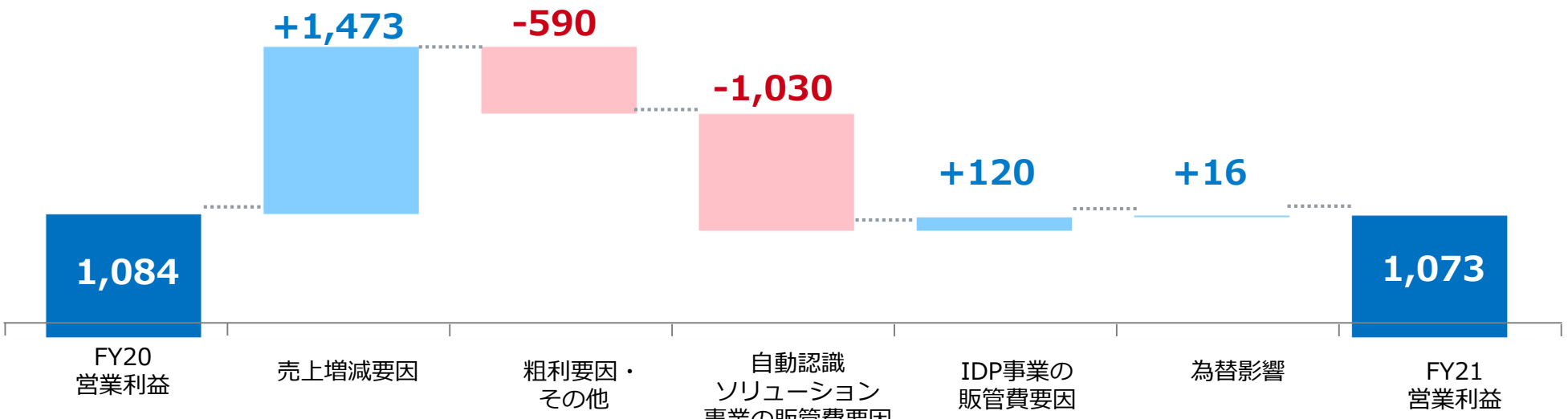
市場別売上高構成


マニュファクチャリング
ロジスティクス
リテール
ヘルスケア
フード
公共
その他
海外
*主な販社。工場・プライマリー専業会社は除く
注：2021年度より一部販社の市場区分を改定。2020年度数値は遡及修正後
FY20
28.6%
5.0%
34.0%
6.7%
9.5%
15.8%
0.4%
FY21
25.5%
4.0%
38.3%
6.5%
9.7%
15.6%
0.4%
日本
*保守等は除く
FY20
29.9%
22.7%
17.4%
12.8%
12.9%
4.3%
FY21
31.4%
23.0%
17.0%
12.7%
11.5%
4.4%

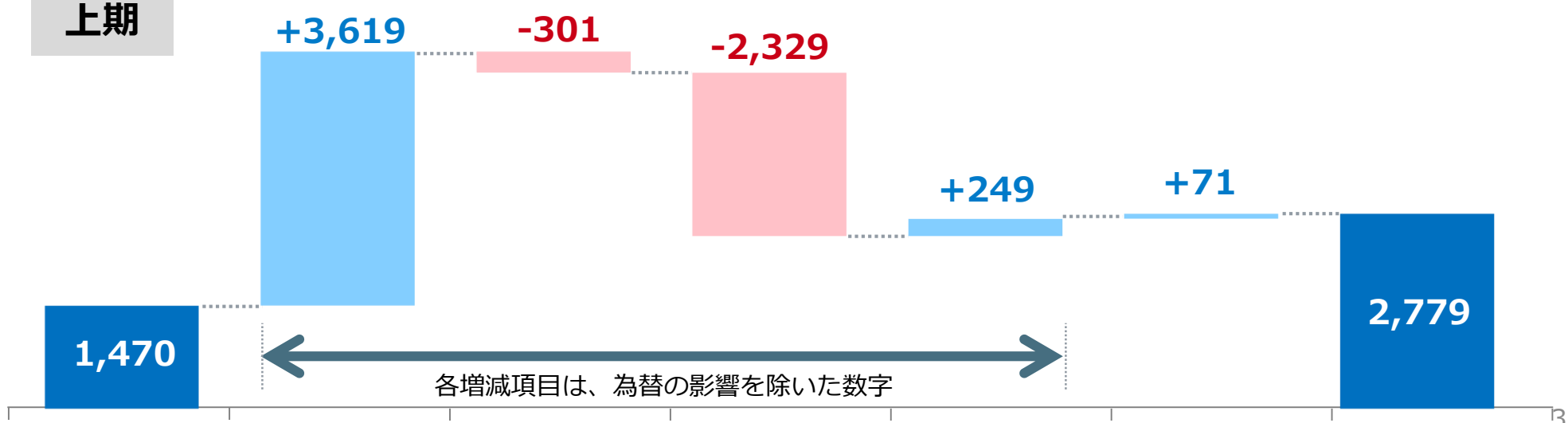
営業利益前年との比較

（単位：百万円）

Q2 7～9月



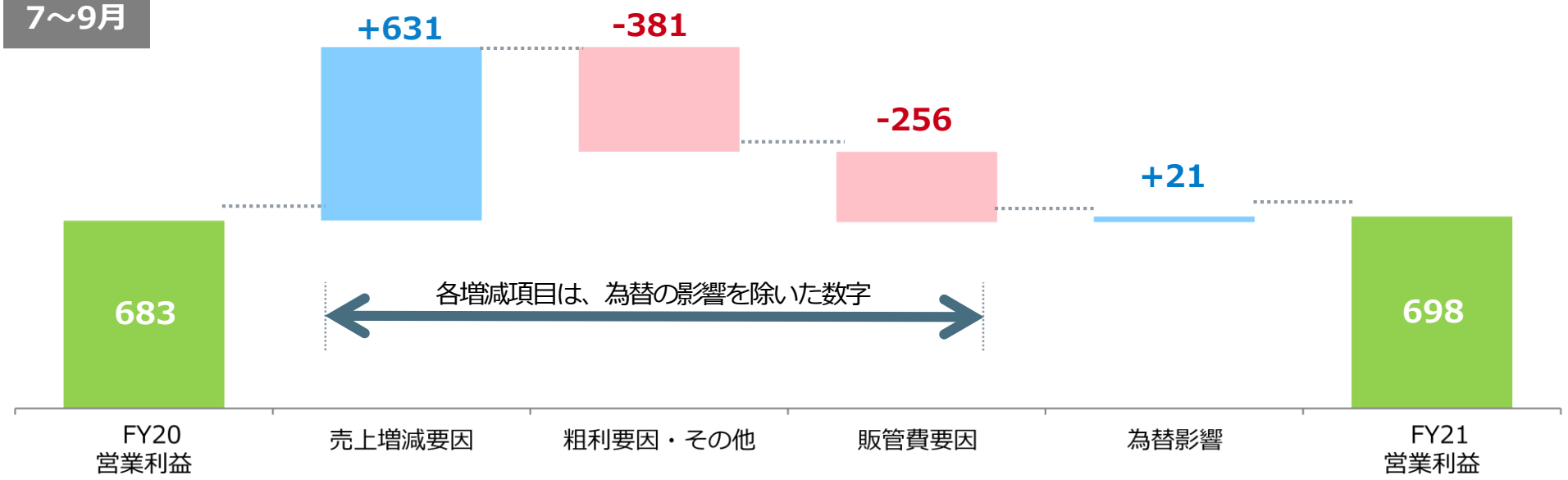
上期



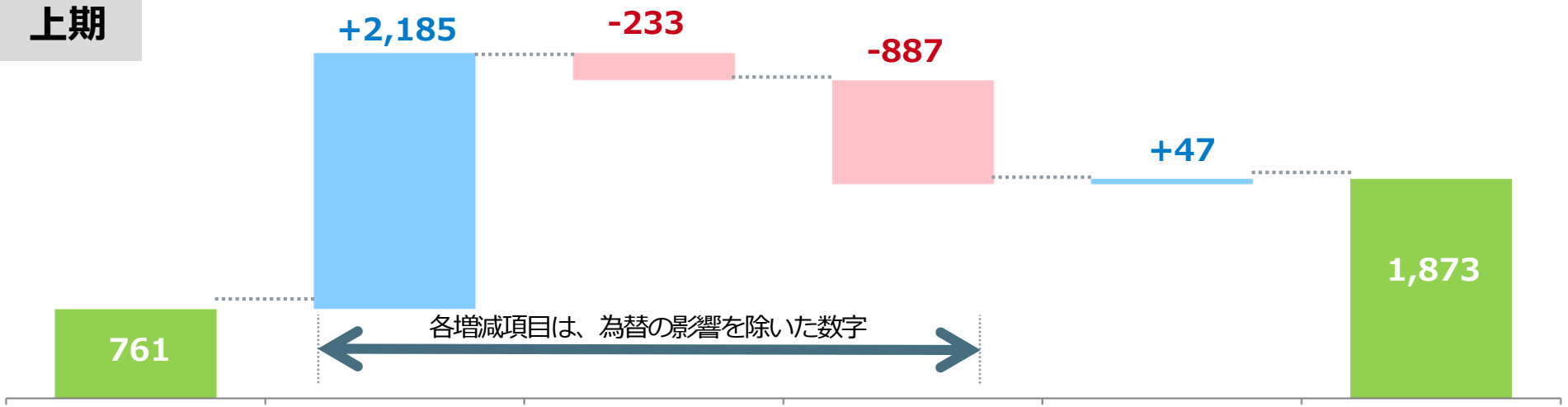
営業利益前年との比較

（単位：百万円）

Q2
7～9月



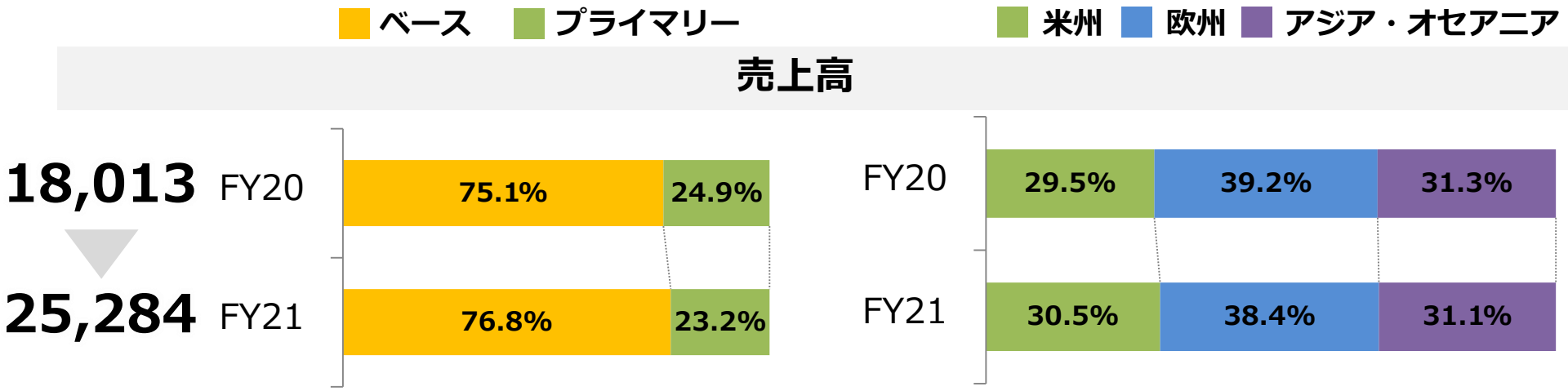
上期



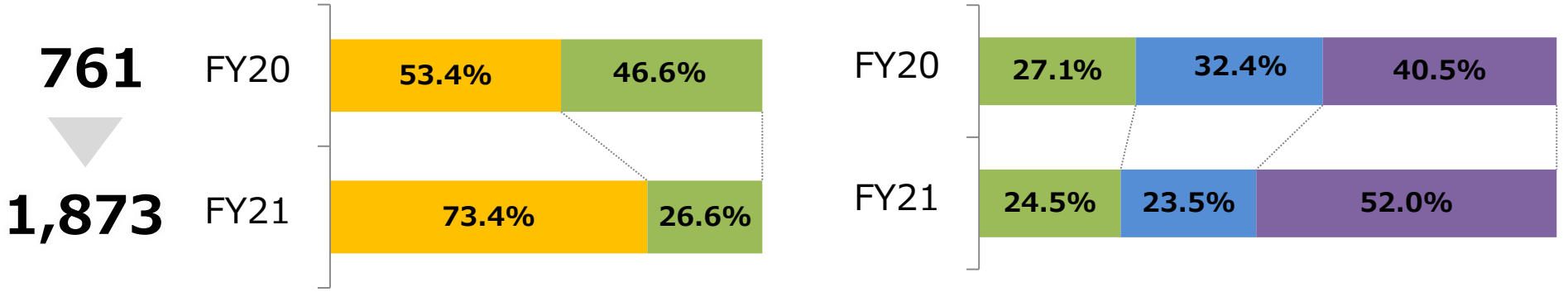
売上高及び営業利益構成 (事業別・地域別)

（単位：百万円）

売上高



営業利益　*割合は消去を除く



営業利益率：
FY20　ベース：2.9%、プライマリー：7.7%
FY21　ベース：6.9%、プライマリー：8.3%

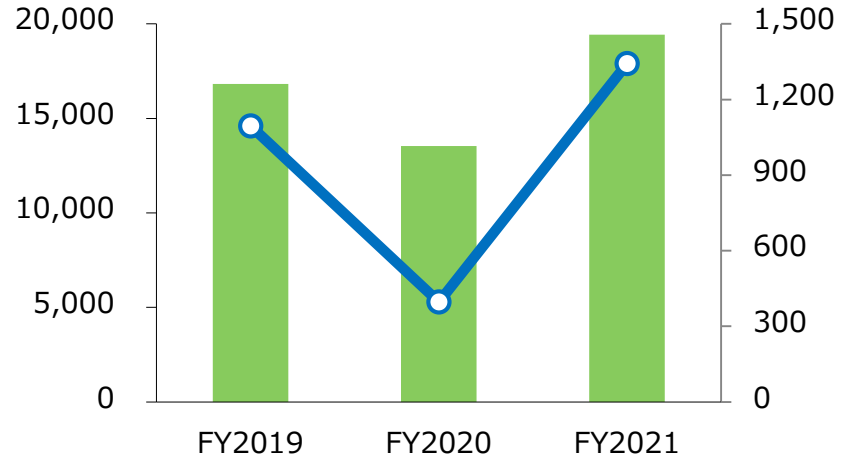
FY20 米州：3.8%、欧州：3.4%、アジア・オセアニア：5.3%
FY21 米州：5.8%、欧州：4.4%、アジア・オセアニア：12.1%

事業別及び地域別売上高及び営業利益推移

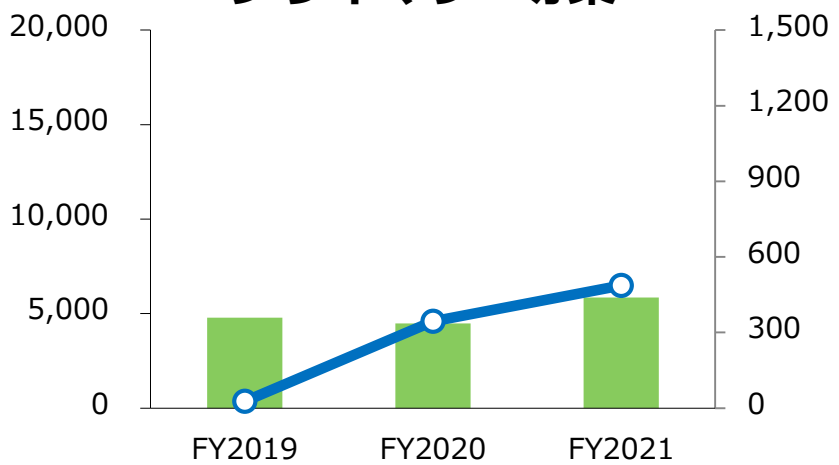
事業別

売上高　営業利益　（単位：百万円、左軸：売上高、右軸：営業利益）

ベース事業

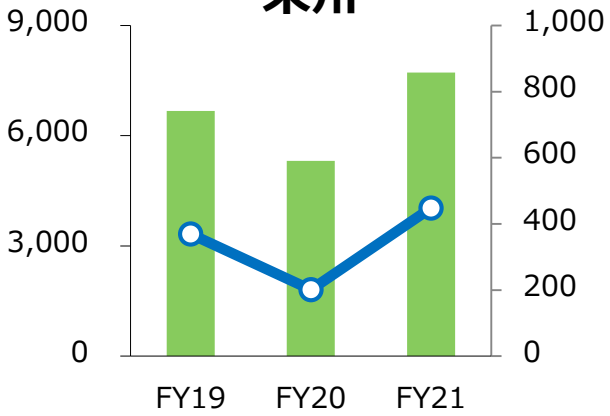


プライマリー専業

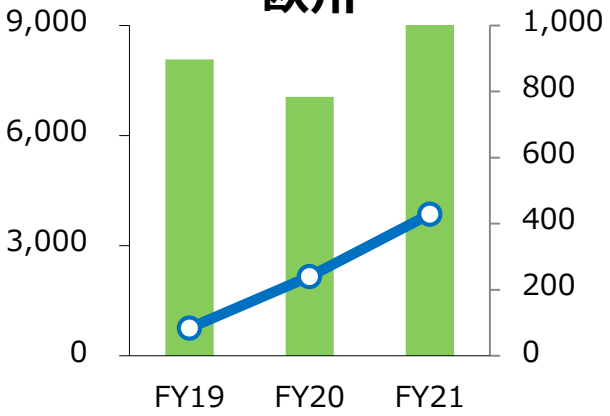


地域別

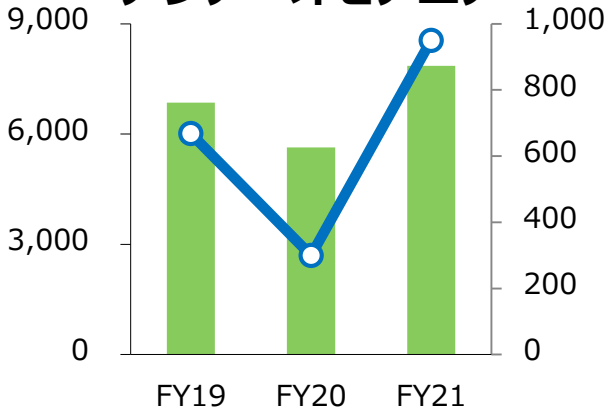
米州



欧州



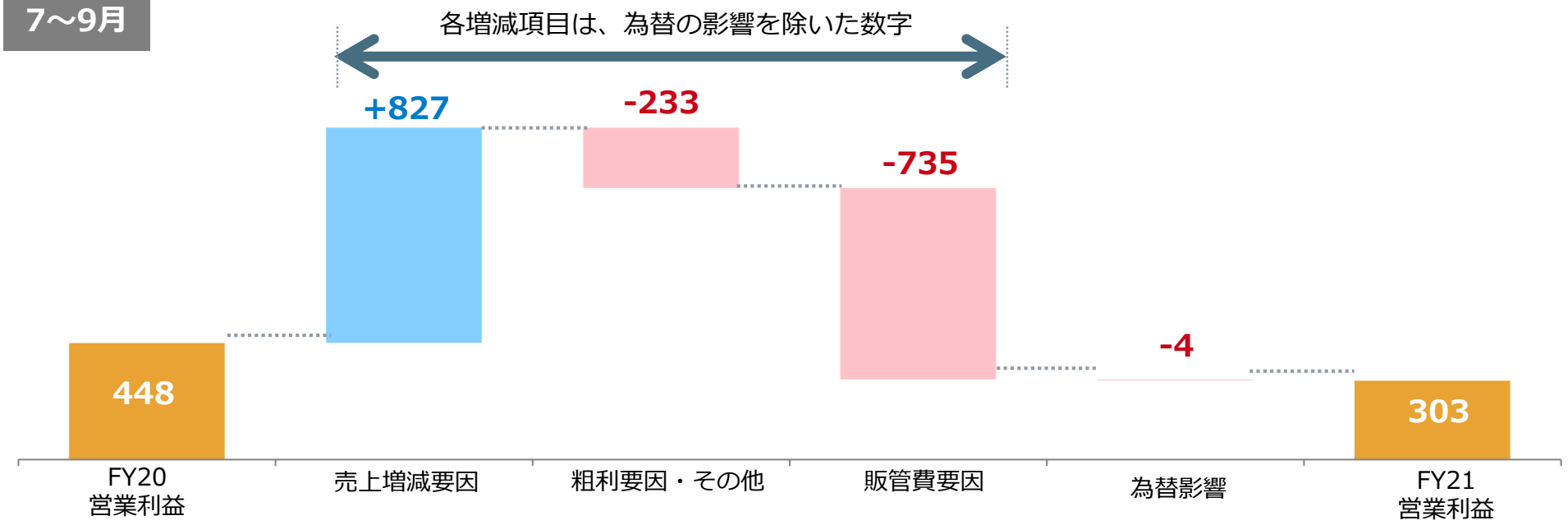
アジア・オセアニア



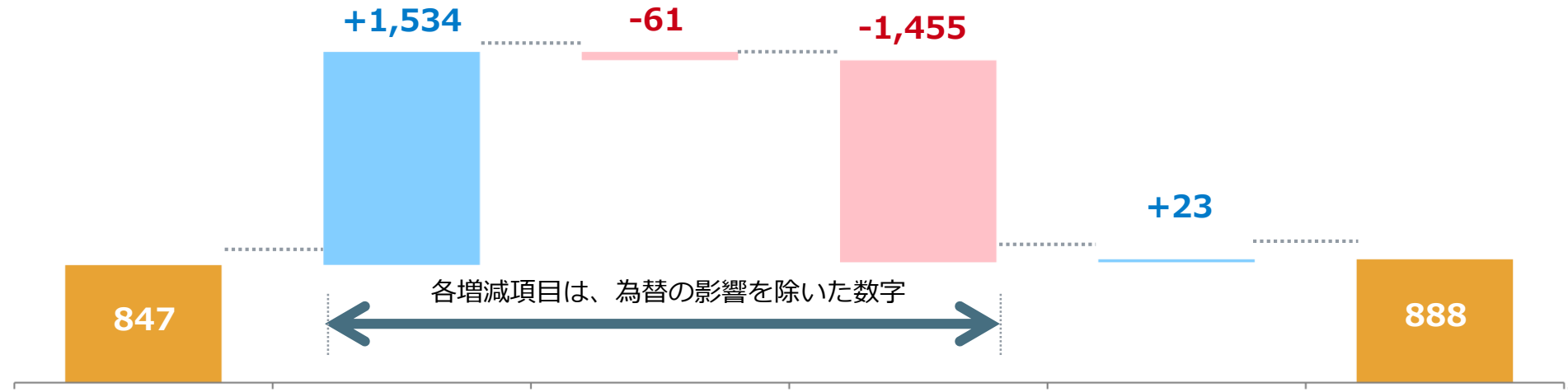
営業利益前年との比較

（単位：百万円）

Q2
7～9月

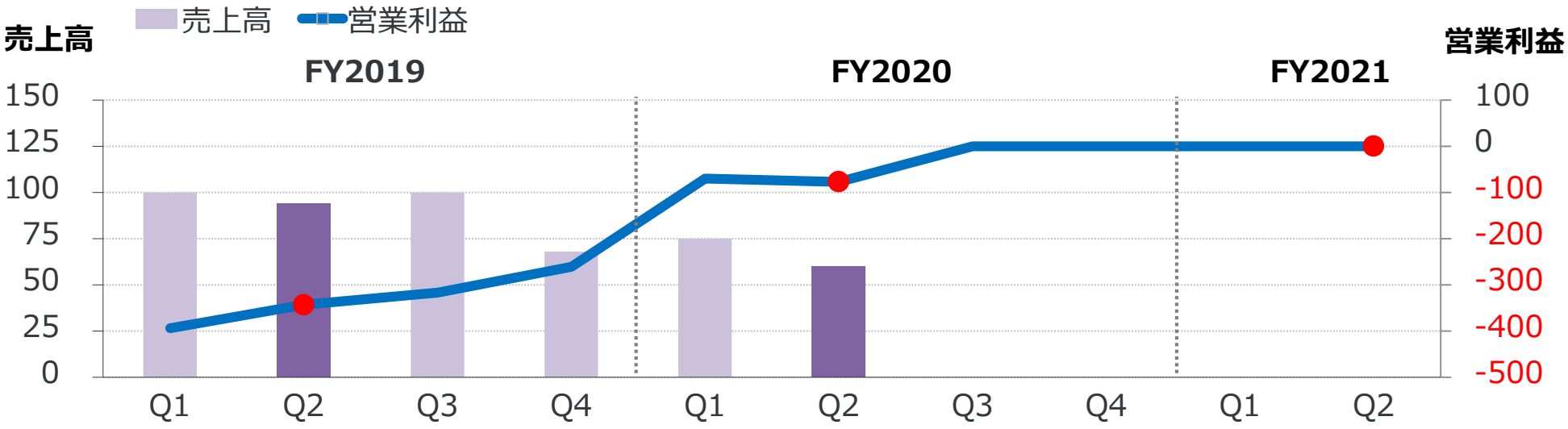


上期



売上高・営業利益 推移

（単位：百万円）



売上高	100	94	100	68	75	60	0	0	0	0
前年比	-20.0%	-10.0%	-13.8%	-15.5%	-24.6%	-35.9%	-	-	-	-
営業利益	-394	-343	-317	-261	-70	-77	0	0	0	0
前年比	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

用語集（1/4）

	サトー独自のコンセプト/取組	説明※
1	自動認識ソリューション事業	DCS & Labeling+Oneを展開。具体的には、お客さまの課題に基づいて自社で開発・製造したバーコードプリンタやラベル、自社で設計したソフトウェアやサービス、外部パートナーの技術や商品などを組み合わせて提供。本事業は海外と日本に区分され、海外はベース事業とプライマリー専業から構成される。
2	ベース事業	バーコードや商品価格、製造年月日、消費期限など可変情報をタギングするビジネス。
3	プライマリー専業	商品ラベルなどの固定情報ラベルをタギングするビジネス。Achernar（アルゼンチン）、Prakolar（ブラジル）、Okil（ロシア）、X-Pack（ロシア）の4社からなる。
4	IDP事業	IDP (Inline Digital Printing) に関わる開発・製造・販売。2020年9月、本事業を推進していた連結子会社DataLase Ltd.の全株式をDataLase Holdings Ltd.へ譲渡。 IDPとは、感熱顔料を含む塗料をさまざまな基材に塗布し、レーザー照射による発色でダイレクト印字ができる印刷技術。
5	コト売り	商品の単品売りではなくハードウエアやサプライ、保守サービス、ソフトウェア等を組み合わせたソリューションを、ROIの提示を含めて提案する売り方。単品売りの「モノ売り」に対する概念。
6	タギング	お客さまの現場で人やモノにIDや位置などの情報を物理的にひも付けし、それを上位システムに受け渡すこと。すなわち現物と情報を一致させ、デジタル化された情報を活用できるようにする作業。 この「現物と情報の一致」は、商品に価格等の情報をひも付けするハンドラベラーの時代から続くサトーの事業コンセプト。
7	DCS & Labeling+One (DCS: Data Collection Systems)	DCS & Labelingは、バーコードやRFIDなどの自動認識技術とプリンタやラベルなどの商品・サービスを活用して、さまざまな現場にある人やモノの情報（＝Data）を正確かつ効率的に収集（＝Collection）する仕組み（=Systems）と、情報を最適な形でひも付けするタギング（含むLabeling）を提供するサトーグループのビジネスモデル。 DCS & Labeling+Oneは、お客さま課題の高度化を受けて、オープンなイノベーションやパートナーシップを活用し、本ビジネスモデルに画像認識・音声認識や位置測位技術、センサーなど（=+One）を組み合わせてお客さま課題の解決手法をさらに向上させる取り組み。

※下線付き用語は別途説明項目あり

用語集（2/4）

サトー独自のコンセプト/取組（続き）		説明
8	Tagging for Sustainability	DCS & Labelingと同様にタギングを核としながらも、ラベルにとどまらないさまざまな技術・手法を取り入れた、高度化したタギングでお客さまの経営課題や社会課題を解決し、持続可能な世界への貢献をめざすDCS & Labelingの次のビジネスモデル。
9	現場力	さまざまな市場・業界のお客さまの現場と向き合い、運用を理解し、課題の本質を捉えて最適な解決策を提供する力。カバレッジ(現場を知ることで蓄積された幅広い「市場x業界x用途」の課題へ対応する力)、インテグレーション(戦略パートナーとの共創に基づき、商品・サービス・技術を統合して提供する力)、メンテナンス(継続的なソリューション提供でお客さまの信頼を醸成し、深く、長い関係を構築する力)の3つの要素で構成される。
10	三行提報	社員が現場でキャッチした、会社を良くするための情報やアイデアを約三行（100~150文字）にまとめて、毎日経営トップに直接提出するサトー独自の取組み。経営トップはいち早く社内外の環境変化を把握し、迅速な意思決定や必要な施策を講じ、社員は経営者と同じ目線で物事を考える「全員参画の経営」に寄与。また経営トップに直接提出することから、不正や不適切な行為などを防ぐモニタリングとしての役割も担っており、コーポレートガバナンスの面においても効果を発揮。 1976年から始まり、近年は海外拠点の導入も増えている。
商品・サービス・技術		**説明**
1	メカトロ商品	プリンタやラベル自動貼付機器、スキャナ、ハンドラベラーなどのハードウェア、ソフトウェア、保守サポートなど、サプライ商品以外のすべて。粗利率はサプライ商品よりも高い。プリンタはマレーシア、ベトナムおよび台湾にて製造。
2	サプライ商品	可変情報ラベル、RFIDタグ、プライマリーラベル（商品シール）、リボンなどの消耗品。粗利率はメカトロ商品よりも低いが、リピートビジネスのため販売管理費率は小さい。

用語集（3/4）

商品・サービス名・技術（続き）		説明
3	自動認識ソリューション	DCS & Labeling+Oneを実現するための商品・サービス。具体的にはプリンタ、ラベル、ソフトウェア、保守サポートなどの組み合わせ。加えて、近年は複雑化・多様化するお客さま課題に応えるために自前主義に拘らず、パートナーシップを推進することにより実現を目指す。例えば位置測位技術を用いて人・モノの位置情報を取得し、作業者や在庫の動きをリアルタイム捕捉することで、工数・作業時間の見える化や製造工程進捗管理を実現。
4	SOS （SATO Online Services）	お客さまのプリンタをクラウドに接続して遠隔でモニタリングを行うサービス。これにより予防保守やエラー時の早期復旧が可能となる。またお客さまはプリンタの稼働・活用状況を一覧でき、資産管理が容易となる。 一方サトーにとっては、予防保守の実現による保守人員の労働生産性向上や、保守人員が少ない海外におけるサポート向上に寄与。
5	AEP（Application Enabled Printing）	プリンタに内蔵された知能がラベル発行作業を最適化。PCを介さずにプリンタ単体で他のシステムとの連携も可能。
6	可変情報ラベル	バーコードや商品価格、製造年月日、消費期限など、お客さまの現場で必要に応じて変化させる情報を印字する用途のラベル。必要な時に必要な分だけ発行できる点が、固定情報を一度に大量印刷するプライマリーラベル（商品シール）との大きな相違点。
7	RFID （Radio Frequency Identification）	自動認識技術の一つ。電波を利用してデータの読み書きを行い、①複数一括読み取り、②非接触での読み取り、③遮蔽物や汚損があっても可能な読み取り、④情報の書き換え、といったバーコードには無い特性を持つ。これにより、業務効率の飛躍的な向上が実現可能。

用語集（4/4）

2012年以降に買収した主な会社		説明
1	Argox Information Co., Ltd.（台湾）	2012年に買収したエントリー・モデルのプリンタの開発・製造・販売子会社。
2	Achernar S.A.（アルゼンチン）	2012年に買収したプライマリー専業子会社。
3	Magellan Technology Pty Ltd.（オーストラリア）	大量のRFIDタグを高速かつ正確に読み取ることができ、金属や液体の影響、および積層状態での読み取りに強いなどの優位性の高いRFID技術「PJM (Phase Jitter Modulation)」を含む同社の事業を2013年に譲り受け、SATO Vicinity Pty Ltd.を設立。
4	Okil-Holding, JSC（ロシア）	2014年に買収したプライマリー専業子会社。サトーホールディングスが75%を保有。同国のX-Packは関連会社。
5	Prakolar Rótulos Autoadesivos LTDA.（ブラジル）	2015年に買収したプライマリー専業子会社。
2017年以降に設立した海外子会社		**説明**
1	X-Pack（ロシア）	シュリンクスリーブ、インモールド、軟包装の製造・販売を行い、サトーホールディングスが60%の株式を保有するプライマリー専業子会社。2017年設立。
2	SATO Productivity Solutions Mexico S.A. de C.V. (メキシコ)	自動車産業に焦点を当てて事業を展開し、サトーホールディングスがほぼ100%の株式を保有する販売子会社。2019年設立。

【本資料ご利用にあたってのご注意事項】

- 本資料に記載の内容は全て2021年11月現在の情報をもとに作成したものです。
- 本資料に記載の内容は予告なく変更することがあります。
- 本資料で使用される商標、ロゴ、商号に関する権利は、当社またはそれぞれの権利の所有者に帰属します。
- 本資料の内容に関する一切の権利につきましては当社に帰属し、本資料の全部または一部を当社の文書による事前の承諾なしに転載または複製することを固くお断り致します。